ァリでタンザニアの国立公園を訪ねており、同地 は日本人旅行者も多いことから、研究班でも治療 薬剤を保管する必要性があると判断した。

本症の治療薬については、旅行者感染症を対象とする欧州のサーベイランスネットワーク ()から入手先を把握し、スラミン、メラルソプロール、エフロールニチンの3種類を確保することができた。

スラミンは、ペンタミジンとともに、病変が中枢神経系に及んでいない時期(病初期)の治療薬である。メラルソプロールは、元来、ガンビア型、ローデシア型両者のすべての病期に使用可能であるが、実際は病変が中枢神経系に及んでいる時期(病後期)に使われる。しかし、毒性が非常に強いのが難点である。エフロールニチンはガンビア型のみ適応となり、その病後期に使われるが、メラルソプロールより副作用が少なく耐薬性は優れている。

5. クリプトスポリジウム症

通常、免疫健常者では自然治癒するが、HIV感染などの免疫不全者では重症化することから、有効な治療薬が望まれていた。ニタゾキサニドはニトアゾールベンザミド系薬で、エジプトなどをで痢に優れた効果が示されている。さらに、本薬剤はジアルジア、赤痢アメーバ、トリコモナスをどの原虫や、回虫、鞭虫、肝蛭などの蠕虫はクロストリジウム属、バクテロイデス属をにはクロストリジウムを変剤の輸入・保管を開始によるでの発症でも最近、本薬剤の輸入・保管を開始におけるクリプトスポリジウム症のみを対象とする。しかし、成人あるいは免疫不全者での治験は世界

でも例数が少ないため⁵、本剤の効果や安全性が確立されているとは言えない。

おわりに

本稿で述べた輸入感染症は寄生虫症、しかもほとんどが原虫症であるが、輸入感染症全体の病原体としては他の寄生虫、真菌、細菌、リケッチア、ウイルスなど多彩である。輸入感染症は一般の臨床医にはなじみが薄く、診断を誤ったり、不適切な治療が行われがちである。また、治療薬には国内未発売のものが多い。国内で輸入感染症の診療が適切に行われるために、本研究班のネットワークが活用されることを望む。

本稿は、創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業 (KH42074) の研究成果を含む。

文 献 一

- 1) Toovey S, Jamieson A: Co-artemether has been used in ambulatory treatment of falciparum malaria. BMJ, 324: 1585, 2002.
- 2) Barnes KI, et al.: Efficacy of rectal artesunate compared with parenteral quinine in initial treatment of moderately severe malaria in African children and adults; a randomised study. Lancet, 363: 1598-1605, 2004.
- 3) Guerin PJ, et al.: Visceral leishmaniasis; current status of control, diagnosis, and treatment, and a proposed research and development agenda. Lancet Infect Dis, 2: 494-501, 2002.
- 4) Jelinek T, et al.: Cluster of African trypanosomiasis in travelers to Tanzanian national parks. Emerg Infect Dis, 8:634-635, 2002.
- 5) Rossignol JF, et al.: A double-'blind' placebo-controlled study of nitazoxanide in the treatment of cryptosporidal diarrhoea in AIDS patients in Mexico. Trans R Soc Trop Med Hyg, 92: 663-666, 1998.

熱帯熱マラリアに対するアトバコン / プログアニル合剤 (マラロン®) の使用経験

東京慈恵会医科大学 感染制御部 吉川晃司・佐藤文哉・水野泰孝・坂本光男 吉田正樹・小野寺昭一・柴 孝也 同 熱帯医学研究部

大友弘士

Key Words:熱帯熱マラリア、マラリア、アトバコン/プログアニル合剤、マラロン®

はじめに

新規抗マラリア薬であるアトバコン/プログアニル合剤(マラロン®,アトバコン 250 mg・プログアニル 100 mg/ 錠)は,他の抗マラリア薬と異なる作用機序,すなわち原虫のミトコンドリア内の電子伝達系チトクローム bc1 複合体レベルでの阻害作用を有するアトバコンと葉酸拮抗薬のプログアニルの合剤で,薬剤耐性熱帯熱マラリアに対し高い忍容性と有効性が海外で報告されている ^{1)~7)}。しかしわが国において,治療経過を踏まえ本剤の治療効果や副作用について検討した研究はほとんど報告されていない。

そこで、 $1994 \sim 2003$ 年に本学で診療した熱帯熱マラリア患者の中で、推定感染地から薬剤耐性熱帯熱マラリアが推定され、本剤を治療に使用した 17 例について retrospective に解析した。

対象と方法

対象は、合併症のない熱帯熱マラリア患者(以下、軽症例)15例、重症熱帯熱マラリア患者(以下、重症例)2例で、重症度の判定はWHO重症マラリア基準(2000年)を参考にした⁸⁾。症例は、全例とも本学受診当日に血液塗抹ギムザ染色標本、アクリジンオレンジ染色標本の鏡検およびマラリア抗原検出法を用いて診断し、治療を開始した。治療開始後は4週間にわたり経過を観察し、再燃の有無を確認した。

マラロン[®]は、創薬等ヒューマンサイエンス総合研究事業「熱帯病に対するオーファンドラッグ開発研究」 班から入手し、1日1回4錠、3日間、食事または乳製品とともに同じ時間に投与した。軽症例に対しては本剤を急性期治療として使用し、重症例に対してはキニーネ注射剤投与により病状改善した後に経口療法として本剤に切り換えた。

Clinical Trial of Atovaquone/Proguanil Against Falciparum Malaria

Koji Yoshikawa* Fumiya Sato* Yasutaka Mizuno* Mitsuo Sakamoto*
Masaki Yoshida* Shouichi Onodera* Kohya Shiba* Hiroshi Ohtomo**

*Division of Infectious Disease and Infection Control, Jikei University School of Medicine

**Research Unit of Tropical Medicine, Jikei University School of Medicine

論文請求先:吉川晃司 〒105-8461 港区西新橋 3-25-8 東京慈恵会医科大学 感染制御部

Clinical Parasitology Vol. 15 No. 1 2004

表 1 アトバコン/プログアニル合剤(マラロン®)使用患者の患者背景

200 1 7 17 1-2	12/2 m 2 2 - 12 m 1/3 (1 2 - 1	, ,, ,, , , , , , , , , , , , , , , , ,
14.6 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	合併症のない熱帯熱マラリア (n=15)	重症熱帯熱マラリア (n=2)
性別	男 14:女 1	男2:女0
平均年齡 (範囲)	32.7歳 (20~42)	38.5歳 (19~58)
推定感染地	サハラ以南熱帯アフリカ 15	サハラ以南熱帯アフリカ 2
国籍	日本人9:外国人6	日本人2:外国人0
渡航目的	(日本人) 観光 5,業務 3,ま ランティア 1 (外国人) 帰省 4,日本への観光 2	観光 1,業務 1
抗マラリア薬予防内服	有 3 (全例不適正内服),無 12	有1(不適正内服),無1
発症後当院受診までの 平均日数 (範囲)	3.8日 (0~16)	6.5日 (5~8)
本剤開始時の平均体温 (範囲)	38.9℃ (38.4~40.3)	
本剤開始時の末梢血 平均原虫寄生率 (範囲)	0.43% (<0.01~2.4)	
本剤開始時の末梢血 平均原虫数 (範囲)	21272/ μ L (472~112320)	
重症マラリアの合併症		脳症 2

軽症例, 重症例について, 臨床効果, 寄生虫学的 効果, 臨床検査値異常, 副作用を検討した。

結果

1) 患者背景 (表 1)

推定感染地は、軽症例、重症例ともに全例が薬剤耐性熱帯熱マラリアが推定されるサハラ以南熱帯アフリカであった。抗マラリア薬予防内服は、軽症例3例、重症例1例に行われていたが全て薬剤選択または内服期間が不適切で、適正な予防内服を行っていた症例はいなかった。軽症例における本剤開始時の体温は $38.4 \sim 40.3$ °C、末梢血原虫寄生率は0.01%未満 ~ 2.4 %であった。重症例の合併症は2例とも脳症であった。

- 2) 合併症のない熱帯熱マラリア患者(軽症例)
- a) 臨床効果

本剤投与終了翌日(投与 3 日目)の解熱患者は 4 例(26.7%)であったが、開始 1 週間後には遷延性の溶血性貧血を呈したために発熱が持続した 1 例を除く 14 例(93.3%)が解熱を認めた。発熱消失時間 (FCT)の平均は 85.0 時間 ($12\sim204$)、転帰は全例治癒であった。

b) 寄生虫学的効果

本剤初回投与翌日に8例(53.3%)の患者に一過性の原虫寄生率上昇がみられたが、投与終了翌日(投与3日目)に7例(46.7%)、投与5日目には全例の患者に原虫消失を認め、以後再燃はみられなかった。原虫消失時間(PCT)の平均は73.1時間(20~108)であった。

c) 臨床検査値異常 (表 2)

文献 4050 を参考に、臨床検査値異常のクライテリアを設定し、投与開始時、開始 2 週間後、開始 4 週間後、全経過中にこのクライテリアを満たした症例数を調べた。白血球数減少、血小板数減少、総ビリルビン値上昇は投与開始時および全経過中に、中等度以上のトランスアミナーゼ上昇は投与開始時、開始 2 週間後および全経過中にクライテリアを満たした症例がそれぞれ数例みられたが、開始 4 週間後には改善していた。

d) 副作用

嘔吐が4例(26.7%)にみられたが、いずれも本 剤内服1時間以降に出現し、高熱を呈していた時の 嘔吐で、制吐剤の併用、解熱時には嘔吐は認められ なかった。

Clinical Parasitology Vol. 15 No. 1 2004

表 2 合併症のない熱帯熱マラリア (n=15) におけるマラロン® 使用後の 主な臨床検査値異常

18 = J H	クライテリア -	クライテリアを満たした症例数 (%)			
<i></i>		投与開始時	開始2週間後	開始4週間後	全経過中
WBC	<3000 / μ L	1 (6.7%)	0	0	4 (26.7%)
Hb	<7.5 g/dL	0	0	0	0
Plt	$< 50 \text{x} 10^3 / \mu \text{L}$	1 (6.7%)	0	0	4 (26.7%)
AST	> 100 IU/L	0	1 (6.7%)	0	2 (13.3%)
ALT	> 100 TU/L	1 (6.7%)	3 (20.0%)	0	5 (33.3%)
T-Bil	> 2 mg/dL	2 (13.3%)	0	0	5 (33.3%)

3) 重症熱帯熱マラリア (重症例)

キニーネ注射剤の持続点滴により意識状態の改善を待って本剤による経口療法へ変更した2例は、経 過観察期間中に再燃、副作用を認めなかった。

考案

薬剤耐性熱帯熱マラリアが推定される合併症のな い熱帯熱マラリア患者において, マラロン®による 治療は全例が治癒し、再燃は認められなかった。海 外の報告同様^{4)~7)},本剤は効果発現が遅く,初回 投与翌日に約半数の患者に一過性の原虫寄生率上昇 を認めたが、開始1週間後には93%の患者に解熱 を,全例に原虫消失を認めた。マラリア感染または 薬剤性,溶血等が原因と思われる臨床検査値異常が 本剤開始時および経過中にみられたが、開始4週間 後には全て改善した。副作用では嘔吐が26.7%に認 められたが、いずれも投薬1時間以降に出現し、高 熱を呈していた時の嘔吐で,本剤との関連性は低い と考えられた。以上より,薬剤耐性熱帯熱マラリア が推定される合併症のない熱帯熱マラリア患者の急 性期治療において、マラロン®は効果発現が遅いが、 治癒率および忍容性が高く, 内服方法も簡便で有用 性が高いと考えられた。

重症熱帯熱マラリア患者 2 例は、キニーネ注射剤 投与により病状改善した後に経口療法として本剤に 切り換えたが、再燃、副作用を認めず治癒に至った。

汝 対

- 大友弘士,他(2003):耐性菌感染症に対する戦略 的化学療法5)マラリア.化学療法の領域,19, 1317-1322.
- 2) 大友弘士,他(2003):マラリア. 綜合臨床,52増, 1176-1182
- 山田治美,他(2001):新しい抗マラリア薬. Progress in medicine, 21,375-382.
- Looareesuwan, S. et al. (1996): Clinical studies of atovaquone, alone or in combination with other antimalarial drugs, for treatment of acute uncomplicated malaria in Thailand. Am. J. Trop. Med. Hyg., 54, 62-66.
- Looareesuwan, S. et al. (1999): Efficacy and safety of atovaquone/proguanil compared with mefloquine for treatment of acute *Plasmodium falciparum* malaria in Thailand. Am. J. Trop. Med. Hyg., 60, 526-532.
- 6) Bouchaud, O. *et al.* (2000): Atovaquone plus proguanil versus halofantrine for the treatment of imported acute uncomplicated *Plasmodium falciparum* malaria in non-immune adults: a randomized comparative trial. Am. J. Trop. Med. Hyg., 63, 274–279.
- van Vugt M. et al. (2002): Treatment of uncomplicated multidrug-resistant falciparum malaria with artesunate-atovaquone-proguanil. CID., 35, 1498-1504.
- 8) WHO. (2000): Severe falciparum malaria. Trans. R. Soc. Trop. Med. Hyg., 94 (Suppl. 1), S1-90.

Clinical Parasitology Vol. 15 No. 1 2004



Available online at www.sciencedirect.com



Experimental Parasitology 106 (2004) 50-55

Experimental Parasitology

www.elsevier.com/locate/yexpr

Plasmodium falciparum: selenium-induced cytotoxicity to P. falciparum

Nao Taguchi,^a Toshimitsu Hatabu,^{a,*} Haruyasu Yamaguchi,^a Mamoru Suzuki,^b Kumiko Sato,^a and Shigeyuki Kano^c

Gunma University School of Health Sciences, 3-39-15 Showa-machi, Maebashi 371-8514, Japan
 Gunma University Graduate School of Medical Sciences, 3-39-22 Showa-machi, Maebashi 371-8511, Japan
 Research Institute, International Medical Center of Japan, 1-21-1 Toyama, Shinjuku, Tokyo 162-8655, Japan

Received 4 September 2003; received in revised form 15 January 2004; accepted 23 January 2004

Abstract

The in vitro antimalarial activity of sodium selenite (NaSe) was investigated and the mechanism of its action was studied. NaSe had antimalarial activity against both the chloroquine-susceptible strain FCR-3 and chloroquine-resistant strain K-1 of *Plasmodium falciparum*. The shrunken cytoplasm of the parasite was observed in a smear 12 h after treatment with NaSe. Co-treatment with copper sulfate (CuSO₄) in culture did not affect the antimalarial activity of NaSe, but NaSe cytotoxicity against the mammalian cell line Alexander was decreased significantly. The intracellular reduced glutathione level of parasitized red blood cells was decreased significantly by treatment with NaSe, and the decrease was consistent with their mortality. Treatment with NaSe had a strong inhibitory effect on plasmodial development, and NaSe cytotoxicity to human cells was decreased by co-treatment with CuSO₄. These results suggest that co-treatment with NaSe and CuSO₄ may be useful as a new antimalarial therapy.

© 2004 Elsevier Inc. All rights reserved.

Index Descriptors and Abbreviations: Plasmodium falciparum; antiplasmodial activity; sodium selenite; pRBCs, parasitized red blood cells; RBCs, red blood cells; GSH, reduced glutathione; NaSe, sodium selenite; CuSO₄, copper sulfate

1. Introduction

Drug resistance in malaria is an important public health concern. *Plasmodium falciparum* has developed resistance to most of the commonly used antimalarial drugs including chloroquine, sulfadoxine-pyrimethamine, and mefloquine (Wongsrichanalai et al., 2002). Therefore, a search for new antimalarial drugs is very important.

Selenium is an essential trace element in mammals. Numerous epidemiological and experimental studies have found an anticarcinogenic activity of selenium (Clark et al., 1996; Combs and Gray, 1998; Comstock et al., 1992; Siwek et al., 1994; Spallholz, 1994; Spyrou et al., 1996; Thompson et al., 1994). Recently, it has been argued that the anticarcinogenic activity of

* Corresponding author. Fax: +81-27-220-8915.

E-mail address: hatabu@health.gunma-u.ac.jp (T. Hatabu).

selenium depends on its ability to generate superoxide, which is known for its DNA-damaging activity and induction of apoptosis (Lu et al., 1994).

There are some preliminary experiments suggesting that oxidative stress is the cause of selenium cytotoxicity and growth inhibition. Some investigators reported that the superoxide anion was generated by the reaction of sodium selenite (NaSe) with reduced glutathione (GSH) in a cell-free system (Davis and Spallholz, 1996). Other investigators reported that the cytotoxicity of selenium was decreased by co-treatment with copper sulfate (CuSO₄) (Jensen, 1975). But the mechanisms of these beneficial reactions are not known.

Since the reactive oxygen species is known to have the toxic effects for the malaria parasite and NaSe generate the superoxide and consume the intracellular GSH, we have evaluated the antimalarial effect of NaSe and investigated its interaction with intracellular GSH for development of new antimalarial drug to resolve drug resistance problem.

2. Materials and methods

2.1. Parasites and cells

Chloroquine-susceptible *P. falciparum* strain FCR-3 and chloroquine-resistant *P. falciparum* strain K-1 were grown asynchronously, following the modified method of Trager and Jensen (1976), in RPMI 1640 medium supplemented with 10% human B serum, 25 mM Hepes, 25 μ g/ml gentamicin (Sigma–Aldrich, St. Louis, MO), sodium bicarbonate, and human type O red blood cells (RBCs) in disposable sterile dishes under a controlled atmosphere of 5% CO₂ at 37 °C.

The human hepatocellular carcinoma cell line Alexander (Alex cells) was a kind gift of Dr. Takeaki Nagamine, Gunma University School of Health Sciences. Alex cells were grown continuously in complete Dubecco's modified Eagle's medium (DMEM; BRL, Grand Island, NY) supplemented with 10% fetal bovine serum (FBS) and penicillin–streptomycin (100 U/ml, 10 ml/liter; BRL, Grand Island, NY) under a 5% CO₂ atmosphere at 37 °C.

2.2. Investigation of in vitro plasmocidal effect of NaSe

Since several studies have shown effective anticarcinogenic activity of NaSe between 10 and 100 µM (Batist et al., 1986; Caffrey and Frenkel, 1992; Davis et al., 1998), RPMI 1640 medium was supplemented with either a 10 or 100 μM NaSe solution that was sterilized by filtration through a 0.22-um filter. The NaSe-supplemented medium was changed every 24 h. Five hundred microliters of a parasitized-RBCs (pRBCs) suspension was placed in each well of a 24-well flat bottom culture plate (Corning Costar, New York, NY) at a hematocrit of 5% and an initial parasitemia of 0.1%. Thin-smeared specimens stained with Giemsa solution were made every 24h and parasitemia was evaluated by counting the parasites in 3000 RBCs. Morphological changes of the parasites were monitored by observing Giemsa-stained thin-smeared specimens 2, 4, 12, and 24 h after treatment.

2.3. Determination of IC₅₀ of NaSe against parasite

The pRBCs were synchronized with 5% D-sorbitol for 15 min at room temperature as described by Lambros and Vanderberg (1979) and then were washed three times with RPMI 1640 medium by centrifugation at 400g for 5 min. After washing, the pRBCs were resuspended in RPMI 1640 medium supplemented with 10% human B serum, 25 mM Hepes, 25 mM gentamicin, and sodium bicarbonate. Synchronous pRBCs having about 2% parasitemia were placed in 24-well cell culture plates as described above. Twenty microliters of NaSe solution was added to each well to give a series of concentrations

from 10 to 100 µM. Six wells per plate served as NaSefree controls to monitor parasite growth. After 24h of incubation under a 5% CO₂ atmosphere at 37 °C, the control wells were checked for parasite growth. When the schizonts were fully grown in the control wells, the culture plate was removed from the incubator. Thinsmear specimens stained with Giemsa solution were made from the contents of each well. We first counted RBCs in the control smears until we encountered a total of 50 schizonts. The effect of NaSe on parasite growth was evaluated by comparing the number of schizonts in the same number of RBCs as was counted in the control cultures. The growth inhibition effect (%) was calculated as follows: (test well schizont count/control well schizont count) × 100. The NaSe concentration inhibiting parasite growth by 50% (IC₅₀) was calculated by the probit method (Inaba et al., 2001).

2.4. Detection of hemolysis caused by treatment with NaSe and CuSO₄

Hemolytic level was determined by measuring the hemoglobin that eluted into the medium with the SLS-hemoglobin method (Hemoglobin B test Wako, Wako Pharmaceutical, Osaka, Japan). Briefly, after exposure of pRBCs or RBCs to 40 µM NaSe that completely inhibited parasite growth and 2.5–40 µM CuSO₄, as described above, samples were centrifuged at 1000g for 5 min at 20 °C, and the supernatant was collected and analyzed. These Se:Cu ratios were shown to decrease NaSe toxicity against carcinoma cells (Shen et al., 2001).

2.5. Cytotoxicity of NaSe and $CuSO_4$ to P. falciparum and Alex cells

Synchronized FCR-3 parasitized erythrocytes having about 2% parasitemia were cultured in 24-well cell culture dishes. Each well, containing 500 μ l of a 5%—hematocrit RBC suspension was supplemented with a 100% growth inhibition (IC₁₀₀)—concentration of NaSe and various concentrations of CuSO₄ (2.5–40 μ M). The remaining procedures were the same as described above. The growth inhibition effect was calculated as shown above. Morphological changes of the parasites in these conditions were monitored by observing Giemsa-stained thin-smeared specimens at 2, 4, 12, and 24 h after treatment.

To assess NaSe and CuSO₄ cytotoxicity to a mammalian cell line, the same experiment was carried out with Alex cells. Alex cells were seeded at 0.5×10^6 cells/ml in 24-well culture plates and incubated (37 °C, 5% CO₂) 24 h in 1 ml of DMEM supplemented with NaSe (40 μ M) and CuSO₄. After the incubation period, detached cells were collected; attached cells were rinsed in the wells once with phosphate-buffered saline (PBS, pH 7.4) and then trypsinized to remove them from the solid

matrix. Cells were then collected by centrifugation (10 min, 830g, 25 °C). Cell viability was assessed by trypan blue exclusion.

2.6. GSH measurement in pRBCs, normal RBCs, and Alex cells

Intracellular GSH measurement was done according to Hissin and Hilf's method (Hissin and Hilf, 1976). Briefly, after treatment with NaSe and CuSO₄, cells were counted with a hemocytometer. After washing with PBS, homogenization buffer (4:1 mixture of 0.1 M sodium phosphate, 0.005 M EDTA buffer, pH 8, and 25% metaphosphoric acid) was added. All suspensions were homogenized on ice with a sonic wave homogenizer for 40 s. The homogenate was centrifuged (30 min, 21000g, 4°C), and the supernatant was collected for analysis. After addition of fluorescent agent o-phthalaldehyde (0.1% in methanol), GSH level was determined with a multi-well plate reader (CytoFluor, Perspective Biosystem, Framingham, MA) at an excitation wavelength of 360 nm and an emission wavelength of 420 nm. Standards contained 0-2 µg GSH/ml.

2.7. Data analysis

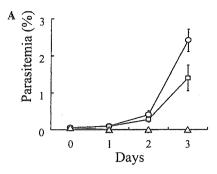
Data are presented as means \pm SEM from at least three sets of independent experiments. Student's t test was used for statistical analyses. A P value <0.05 was considered statistically significant.

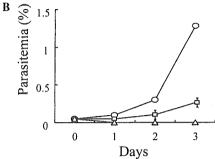
3. Results

3.1. The plasmocidal activity of NaSe to chloroquinesusceptible and -resistant P. falciparum

To confirm the plasmocidal activity of NaSe, chloroquine-susceptible and -resistant P. falciparum were exposed to medium containing either 10 or $100\,\mu\text{M}$ NaSe for 3 days and growth inhibition was monitored by determining the parasitemia (Fig. 1). In the presence of $10\,\mu\text{M}$ NaSe, the growth of chloroquine-susceptible FCR-3 caused less parasitemia ($1.14\pm0.34\%$) than in the control culture ($2.41\pm0.30\%$, P<0.0005, Fig. 1A). The growth of chloroquine-resistant K-1 also caused less parasitemia ($0.20\pm0.06\%$) than in the control culture ($1.29\pm0.01\%$, P<0.005, Fig. 1B). In the presence of $100\,\mu\text{M}$ NaSe, the growth of both strains was inhibited completely.

Results of the in vitro drug susceptibility tests using NaSe are shown in Fig. 1C. The IC₅₀ values for NaSe were $21.26 \pm 0.94 \,\mu\text{M}$ for FCR-3 and $15.50 \pm 1.60 \,\mu\text{M}$ for K-1. There was no significant difference between IC₅₀ values of chloroquine-susceptible FCR-3 and -resistant K-1 (P > 0.05). No intact parasites were observed after





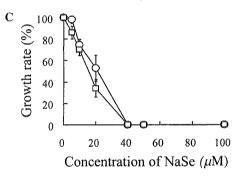


Fig. 1. Antimaralial effect of NaSe. NaSe was added to cultures of chloroquine-susceptible strain FCR-3 (A) and chloroquine-resistant strain K-1 (B) at concentrations of $100\,\mu\text{M}$ (triangle), $10\,\mu\text{M}$ (square), and $0\,\mu\text{M}$ (circle). Parasitemia (%) was determined every 24 h. (C) Dose-dependent effect of NaSe on the inhibition of FCR-3 (circle) and K-1 (square) maturation in vitro. K-1 has less sensitivity than does FCR-3. Results are presented as means \pm SEM. SE bars smaller than symbols are not shown.

treatment with $40 \,\mu\text{M}$ NaSe. For this reason, $40 \,\mu\text{M}$ NaSe was applied in the following experiments.

3.2. Effect of CuSO₄ on NaSe toxicity to Alex cells or FCR-3

The effect of CuSO₄ in combination with NaSe on parasite growth was investigated. Although the mortality of the Alex cells was $30.01\pm10.00\%$ upon exposure to medium containing $40\,\mu\text{M}$ NaSe, the mortality of Alex cells was decreased by co-treatment with CuSO₄ (Fig. 2). In the presence of either 2.5 or $40\,\mu\text{M}$ CuSO₄, the susceptibility of the parasites to NaSe was not affected. Mortality of parasites was higher ($50.0\pm15.9\%$) than that of Alex cells ($0.13\pm1.50\%$) upon exposure to $20\,\mu\text{M}$ CuSO₄ only.

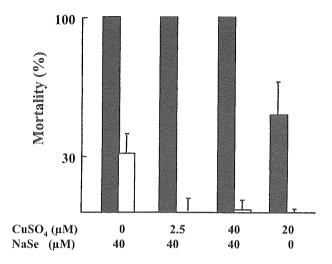


Fig. 2. Cell mortality after treatment with NaSe and $CuSO_4$ for 24 h. Trypan blue exclusion was used to assess mortality of Alexander cells (white bar). The effect of sodium selenite on *P. falciparum* growth was evaluated by comparing the number of schizonts in test erythrocytes with the number in the control cultures (black bar). The results are presented as means \pm SEM.

3.3. Hemolysis caused by NaSe and CuSO₄

To detect hemolysis as an index of cytotoxicity, the concentration of hemoglobin in pRBCs and RBCs culture media was determined. No hemolysis was detected in the pRBCs culture medium in the presence of 40 µM NaSe only or of 20 μM CuSO₄ only. In the presence of 40 μM NaSe with 40 and 20 μM CuSO₄, the concentration of hemoglobin was significantly $(6.53 \pm 0.29 \text{ g/dl})$ than in the control $(0.37 \pm 0.05 \text{ g/dl}, P < 0.005)$ (Table 1). At CuSO₄ concentrations less than 10 µM, the concentration of hemoglobin ranged from 0.53 ± 0.05 to 0.69 ± 0.22 g/dl, as compared to the control level of 0.37 ± 0.05 g/dl. These values were not significantly different (P > 0.05). Similar results were observed in RBCs culture.

Table I Lysis of pRBCs or RBCs induced by NaSe and CuSO $_4$

Concentration of	Hemoglobin (g/dl) ^a		
NaSe/Cu (μM)	pRBCs	RBCs	
40/40	6.53 ± 0.29	12.08 ± 0.23	
40/20	1.97 ± 0.15	4.16 ± 0.77	
40/10	0.53 ± 0.05	0.63 ± 0.13	
40/5	0.57 ± 0.08	0.56 ± 0.06	
40/2.5	0.59 ± 0.13	0.73 ± 0.13	
40/0	0.69 ± 0.22	0.59 ± 0.00	
0/20	0.61 ± 0.19	0.50 ± 0.06	
0/0	0.37 ± 0.05	0.49 ± 0.05	

^a Each value represents mean ± SEM.

3.4. Morphological changes of parasites exposed to NaSe and CuSO₄

Fig. 3 shows the morphological changes of the parasites when treated with 40 μ M NaSe and 2.5 μ M CuSO₄. In the control culture, only intact ring-form parasites were present after 4 h (Fig. 3A). Four hours after treatment with 40 μ M NaSe and 2.5 μ M CuSO₄, a small number of shrunken parasites were observed (Fig. 3B). In the presence of 40 μ M NaSe and no CuSO₄, similar morphological changes of the parasites were observed (Fig. 3C). Twelve hours after treatment, most of the parasites were early and late trophozoites in culture with 0 μ M NaSe and 0 μ M CuSO₄ (Fig. 3D). Intact parasites were undetectable and almost all the parasites were shrunken after treatment with 40 μ M NaSe and 2.5 μ M CuSO₄ (Fig. 3E) and with 40 μ M NaSe and 0 μ M CuSO₄ (Fig. 3F).

3.5. Changes of intracellular GSH content after treatment with NaSe and CuSO₄

To evaluate the intracellular redox condition after treatment with NaSe and CuSO₄, intracellular GSH contents were determined. As shown in Fig. 4, intracellular GSH levels decreased significantly after a single treatment with 40 μ M NaSe in pRBCs (33.2%), RBCs (27.5%), and Alex cells (36.2%), as compared with control GSH content (P < 0.05). CuSO₄ could prevent the depletion of intracellular GSH contents in Alex cells, even at 2.5 μ M, but not in pRBCs and RBCs.

4. Discussion

Selenium is an essential trace element in humans. It exists in a number of forms with differing valence states, some of which have antineoplastic activity. The usual form of selenium used for supplementation is either selenite or selenomethionine; both have been given in doses up to 200 µg without toxicity. We studied the plasmocidal activity of NaSe against chloroquine-susceptible and -resistant P. falciparum strains. Our results showed that both P. falciparum strains were susceptible to the cytotoxic effects of NaSe and that the susceptibility to NaSe-induced cytotoxicity was unaffected by co-treatment with CuSO₄. In contrast, no cytotoxic effect of NaSe was found in Alex cells upon co-treatment with CuSO₄. These results suggest a selective inhibition of plasmodia by NaSe and CuSO₄. However, in considering the use of NaSe in antimalarial treatment, it will be a critical issue to select the appropriate dose to optimize both the plasmocidal effect and minimize adverse effects to host cells.

Growth inhibition by NaSe of all parasite developmental stages in vitro is obviously different from the

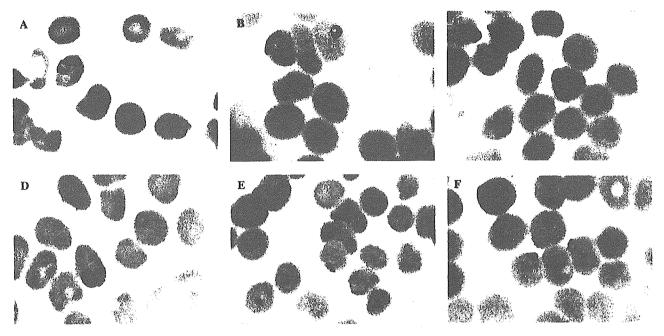


Fig. 3. Light micrographs of Giemsa-stained blood smears. (A) The parasite culture without NaSe or CuSO₄ for 4 h, (B) with 40 μ M NaSe and 2.5 μ M CuSO₄ for 4 h, (C) with 40 μ M NaSe and 0 μ M CuSO₄ for 4 h, (D) without NaSe or CuSO₄ for 12 h, (E) with 40 μ M NaSe and 2.5 μ M CuSO₄ for 12 h, and (F) with 40 μ M NaSe and 0 μ M CuSO₄ for 12 h (magnification, 1000×).

chloroquine effect on growth (data not shown). The shrunken and pyknotic appearance of parasites was observed by light microscopy (Fig. 3). Similar mor-

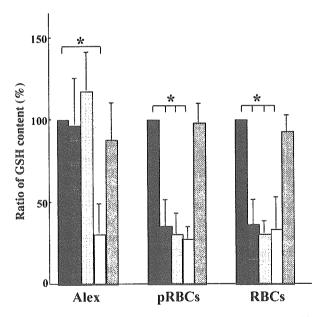


Fig. 4. The ratio of intracellular GSH content in Alexander (Alex) cells, pRBCs, and RBCs after treatment with NaSe and CuSO₄ to that in control cells. Results are presented as means \pm SEM. The black filled column represents the control ratio for cells without NaSe and CuSO₄. The gray shaded column represents the ratio after treatment with 40 μ M NaSe and 40 μ M CuSO₄, the spotted column represents the ratio with 40 μ M NaSe and 2.5 μ M CuSO₄, the open column represents the ratio with 40 μ M NaSe and 0 μ M CuSO₄, and the hatched column represents the ratio with 0 μ M NaSe and 20 μ M CuSO₄. *P < 0.05.

phological changes of the parasites have been observed in owl monkeys infected with *P. falciparum* and treated with the Qhinghaosu derivative artemether (Kawai et al., 1993). Qhinghaosu derivatives, including artemether, are sesquiterpene lactone endoperoxide antimalarials and act through the generation of free radicals that alkylate parasite proteins (Meshnick et al., 1989). It is also well known that NaSe-induced cell death is induced by oxidative stress associated with selenite metabolism and that selenite metabolism is very sensitive to cell GSH (Davis and Spallholz, 1996; Seko and Imura, 1997; Shen et al., 2000). Morphological changes shown in this study and these facts indicate that the plasmocidal action induced by NaSe is mediated by mechanisms similar to those associated with Qhinghaosu derivatives.

No different morphological changes of the parasites were observed between those treated with NaSe alone and with NaSe and CuSO₄. Treatment of human cells with NaSe and CuSO₄ is considered beneficial. The copper cation did not block selenite-induced oxidative stress in erythrocytes, as it does in other cells (Davis et al., 1998; Shen et al., 2001). Our data have also shown the prevention of GSH consumption by CuSO₄ in Alex cells. Several in vitro studies have reported that selenite treatments lead to a decline of intracellular GSH level, and co-treatment with copper prevents that decrease (Davis et al., 1998; Shen et al., 2000, 2001). However, in RBCs, GSH consumption by NaSe was not affected by CuSO₄. These results suggest that parasites might be killed in the same or a similar way as that seen after a single treatment with NaSe.

Detoxification of selenite toxicity in host cells by copper has been shown in in vitro (Davis et al., 1998: Shen et al., 2001) and in vivo (Jensen, 1975). It was suggested that the detoxification of selenite-induced cvtotoxicity is caused by complexation with Cu²⁺, forming GSSe-Cu²⁺-SeSG or simply Cu²⁺-selenide, that prevents the generation of oxygen-free radicals. It also was reported that Cu²⁺ acts as a superoxide dismutase mimic and can detoxify the selenite-induced cytotoxicity because inhibition of free radical generation was observed at a Cu:Se molar ratio of less than 1:1 (Davis and Spallholz, 1996). However, the treatment with NaSe and CuSO₄ caused marked cytotoxicity to P. falciparum but not to normal RBCs and Alex cells. This difference might be due to charge transfer from hemoglobin iron to copper in erythrocytes. Formation of methemoglobin prevented charge transfer to copper and took away its ability to complex with NaSe. Copper may act as a generator of free radical (Fernandes et al., 1988). Therefore, CuSO₄ may not work as a scavenger of superoxide or an inhibitor of the conversion of selenite to selenium by consumption of GSH in RBCs.

In conclusion, NaSe has a strong inhibitory effect on in vitro plasmodial development and is devoid of cytotoxicity towards human cells if there is co-treatment with CuSO₄. Co-treatment with NaSe and CuSO₄ may be a useful antimalarial regimen.

Acknowledgments

The authors thank Dr. Hiroshi Koyama and Dr. Hiroyuki Oku for their valuable comments.

References

- Batist, G., Katki, A.G., Klecker Jr., R.W., Myers, C.E., 1986. Selenite-induced cytotoxicity of human leukemia cell: interaction with reduced glutathione. Cancer Research 46, 5482–5485.
- Caffrey, P.B., Frenkel, G.D., 1992. Selenite cytotoxicity in drug resistant and nonresistant human ovarian tumor cells. Cancer Research 52, 4812–4816.
- Clark, L.C., Combs Jr., G.F., Turnbull, B.W., Slate, E.H., Chalker, D.K., Chow, J., Davis, L.S., Glover, R.A., Graham, G.F., Gross, E.G., Krongrad, A., Lesher Jr., J.L., Park, H.K., Sanders Jr., B.B., Smith, C.L., Taylor, J.R., 1996. Effects of selenium supplementation for cancer prevention in patients with carcinoma of the skin. A randomized controlled trial. Nutritional Prevention of Cancer Study Group. The Journal of the American Medical Association 276, 1957–1963.
- Combs Jr., G.F., Gray, W.P., 1998. Chemopreventive agents: selenium. Pharmacology and Therapeutics 79, 179-192.
- Comstock, G.W., Bush, T.L., Helzlsouer, K., 1992. Serum retinol, beta-carotene, vitamin E, and selenium as related to subsequent

- cancer of specific sites. American Journal of Epidemiology 135, 115-121.
- Davis, R.L., Spallholz, J.E., 1996. Inhibition of selenite-catalyzed superoxide generation and formation of elemental selenium (Se⁰) by copper, zinc, and aurintricarboxylic acid (ATA). Biochemical Pharmacology 51, 1015–1020.
- Davis, R.L., Spallholz, J.E., Pence, B.C., 1998. Inhibition of seleniteinduced cytotoxicity and apoptosis in human colonic carcinoma (HT-29) cells by copper. Nutrition and Cancer 32, 181–189.
- Fernandes, A., Mira, M.L., Azevedo, M.S., Manso, C., 1988.

 Mechanisms of hemolysis induced by copper. Free Radical Research Communications 4, 291–298.
- Hissin, P.J., Hilf, R., 1976. A fluorometric method for determination of oxidized and reduced glutathione in tissues. Analytical Biochemistry 74, 214–226.
- Inaba, H., Ohmae, H., Kano, S., Faarado, L., Boaz, L., Leafasia, J., Suzuki, M., 2001. Variation of incubation time in an in vitro drug susceptibility test of *Plasmodium falciparum* isolates studied in the Solomon Islands. Parasitology International 50, 9-13.
- Jensen, L.S., 1975. Modification of a selenium toxicity in chicks by dietary silver and copper. The Journal of Nutrition 105, 769–775.
- Kawai, S., Kano, S., Suzuki, M., 1993. Morphologic effects of artemether on *Plasmodium falciparum* in *Aotus trivirgatus*. American Journal of Tropical Medicine and Hygiene 49, 812–818.
- Lambros, C., Vanderberg, J.P., 1979. Synchronization of *Plasmodium falciparum* erythrocytic stages in culture. Journal of Parasitology 65, 418-420.
- Lu, J., Kaeck, M., Jiang, C., Wilson, A.C., Thompson, H.J., 1994.
 Selenite induction of DNA strand breaks and apoptosis in mouse leukemic L1210 cells. Biochemical Pharmacolgy 47, 1531–1535.
- Meshnick, S.R., Tsang, T.W., Lin, F.B., Pan, H.Z., Chang, C.N., Kuypers, F., Chiu, D., Lubin, B., 1989. Activated oxygen mediates the antimalarial activity of qinghaosu. Progress in Clinical and Biological Research 313, 95-104.
- Seko, Y., Imura, N., 1997. Active oxygen generation as a possible mechanism of selenium toxicity. Biomedical and Environmental Sciences 10, 333-339.
- Shen, C.L., Song, W., Pence, B.C., 2001. Interactions of selenium compounds with other antioxidants in DNA damage and apoptosis in human normal keratinocytes. Cancer Epidemiology Biomarkers and Prevention 10, 385–390.
- Shen, H., Yang, C., Liu, J., Ong, C., 2000. Dual role of glutathione in selenite-induced oxidative stress and apoptosis in human hepatoma cells. Free Radical Biology and Medicine 28, 1115–1124.
- Siwek, B., Bahbouth, E., Serra, M.A., Sabbioni, E., de Pauw-Gillet, M.C., Bassleer, R., 1994. Effect of selenium compounds on murine B16 melanoma cells and pigmented cloned pB16 cells. Archives of Toxicology 68, 246-254.
- Spallholz, J.E., 1994. On the nature of selenium toxicity and carcinostatic activity. Free Radical Biology and Medicine 17, 45– 64.
- Spyrou, G., Bjornstedt, M., Skog, S., Holmgren, A., 1996. Selenite and selenate inhibit human lymphocyte growth via different mechanisms. Cancer Research 56, 4407-4412.
- Thompson, H.J., Wilson, A., Lu, J., Singh, M., Jiang, C., Upadhyaya, P., el-Bayoumy, K., Ip, C., 1994. Comparison of the effects of an organic and an inorganic form of selenium on a mammary carcinoma cell line. Carcinogenesis 15, 183–186.
- Trager, W., Jensen, J.B., 1976. Human malaria parasites in continuous culture. Science 193, 673–675.
- Wongsrichanalai, C., Pickard, A.L., Wernsdorfer, W.H., Meshnick, S.R., 2002. Epidemiology of drug-resistant malaria. Lancet Infectious Diseases 2, 209-218.

THE PHARMACOKINETICS OF ORAL DIHYDROARTEMISININ AND ARTESUNATE IN HEALTHY THAI VOLUNTEERS

K Na-Bangchang¹, S Krudsood², U Silachamroon², P Molunto², O Tasanor¹, K Chalermrut², N Tangpukdee², O Matangkasombut³, S Kano⁴ and S Looareesuwan²

¹Faculty of Allied Health Sciences, Thammasat University (Rangsit Campus), Pathum Thani; ²Faculty of Tropical Medicine, Mahidol University, Bangkok; ³Faculty of Pharmacy, Rangsit University, Pathum Thani, Thailand; ⁴Research Institute, International Medical Center of Japan, Japan

Abstract. The pharmacokinetics of oral dihydroartemisinin (DHA) following the dose of 2 and 4 mg/ kg body weight dihydroartemisinin (Twisinin', T-2 Program, Thailand) and 4 mg/kg body weight oral artesunate (AS; Guilin Pharmaceutical Works, Guangxi, China) were investigated in 20 healthy Thai volunteers (10 males, 10 females). All formulations were generally well tolerated. Oral DHA was rapidly absorbed from gastrointestinal tract with marked inter-individual variation. The pharmacokinetics of DHA following the two dose levels were similar and linearity in its kinetics was observed. Based on the model-independent pharmacokinetic analysis, median (95% CI) values for C_{max} of 181 (120-306) and 360 (181-658) ng/ml were achieved at 1.5 hours following 2 and 4 mg/kg body weight dose, respectively. The corresponding values for AUC_{0-x}, t_{1/2x}, CL/f and V₂/f were 377 (199-1,128) vs 907 (324-2,289) ng.h/ml, 0.96 (0.70-1.81) vs 1.2 (0.75-1.44) hours, 7.7 (4.3-12.3) vs 6.6 (3.1-10.1) l/kg, and 90.5 (28.6-178.2) vs 6.6 (3.1-10.1) ml/min/kg, respectively (2 vs 4 mg/kg dose). Oral AS was rapidly biotransformed to DHA, which was detectable in plasma as early as 15 minutes of AS dosing. Following 4 mg/kg dose, median (95% CI) value for C_{max} of 519 (236-284) ng/ml was achieved at 0.7 (0.25-1.5) hours. AUC $_{0-\pi}$, and $t_{1/2\pi}$ were 657 (362-2,079) ng.h/ml, 0.74 (0.34-1.42) hours, respectively. C_{max} of DHA following oral AS were significantly higher, but total systemic exposure was greater following oral DHA at the same dose level (4 mg/kg body weight). There was no significant sex difference in pharmacokinetics of DHA.

INTRODUCTION

Malaria is a leading cause of mortality and morbidity in developing areas of the world, and remains a major public health problem in endemic regions (Berman et al, 2001). Resistance to available drugs is increasing, and therefore creating a need for new drugs that are well tolerated and simple to use. In the face of this ominous situation, artemisinin and derivatives (artesunate, arteether, and dihydroartemisinin) have lately become a renewed hope for combating the emerging generations of resistant malaria (Hein and White, 1993; Harinasuta and Karbwang, 1994; McIntosh and Olliaro, 1998). These artemisinin drugs have different physicochemical properties

Correspondence: Dr Sornchai Looareesuwan, Faculty of Tropical Medicine, 420/6 Rajvithi Road, Bangkok 10400, Thailand.

Tel: 66 (0) 2247-1688; Fax: 66 (0) 2245-7288

E-mail: tmslr@mahidol.ac.th

Vol 35 No. 3 September 2004

and are available in a variety of formulations that influence their routes of administration and dosage regimens (de Vries and Dien, 1996; van Agtmael *et al*, 1999; Navaratnam *et al*, 2000).

Artesunate (AS) is a water-soluble hemisuccinate derivative of artemisinin that is widely used in the treatment of both uncomplicated (oral formulation) and severe falciparum malaria (intravenous or suppository formulation) (White, 1994; Barradell and Fitton, 1995; de Vries and Dien, 1996; Looareesuwan et al. 1996; Newton et al, 2003). Dihydroartemisinin (DHA), a reduced lactol derivative, is the main acting blood schizontocidal metabolite of the semisynthetic artemisinin derivatives, with activity 2-5 fold that of the parent drugs (Basco and Le Bras, 1993). DHA is the chemical intermediate in the production of AS and other semisynthetic artemisinin derivatives (Lin et al, 1987), as well as their principal active metabolite (Lee and Hufford, 1990). Although DHA is not sufficiently water-soluble

to be formulated as an intravenous injection, it is cheaper to produce than other aremisinin derivatives. The production of this drug is simple with the high yield. Since AS is rapidly deesterified to DHA (Yang et al, 1985; Batty et al, 1998a; b; Zhao et al, 1988), it may be equally acceptable to administer DHA itself. DHA is currently in clinical use as formulated tablets/capsules or suppositories. Pharmacokinetic and bioavailability data for DHA, when given as an oral or suppository formulation, have been reported (Yang et al, 1985; Zhao et al, 1988; Na-Bangchang et al, 1997; 1998a, b; 1999; Batty et al, 1998a,b; Hung et al, 1999; Binh et al, 2001; Ilett et al, 2002). The objective of the present study was to describe the pharmacokinetics and tolerability of the two oral doses of a new oral formulation of DHA (Twisinin', T-2 Program, Thailand) in healthy Thai volunteers. This was performed in comparison with oral formulation of AS (Guilin Pharmaceutical Works, Guangxi, China) which has been registered for clinical treatment of uncomplicated falciparum in Thailand.

MATERIALS AND METHODS

Subjects

Twenty healthy male and female Thai volunteers, aged between 20 and 35 years, weighing 46.7 to 59 kg, who were residents of the Bangkok area, participated in the study. Inclusion criteria included: non-lactating and non-pregnant (females), no significant abnormal findings on history or examination, particularly liver, kidney, cardiovascular diseases or peripheral neuropathy, no history of antimalarial drug ingestion in the preceding three months, and no other drugs or medications ingested in the preceding week. None was a smoker or alcohol drinker nor was on regular medication. Written informed consent for participation was obtained from all the volunteers before initiation of the study. The study was approved by the Ethics Committees of the Faculty of Tropical Medicine, Mahidol University and the Ministry of Public Health, Thailand.

At enrollment, a medical history was taken, including a full physical examination; each volunteer had a thorough physical examination, routine laboratory investigations, plain chest x-ray, urinalysis, and a 12-lead electrocardiogram (ECG).

Drug administration and study design

The trial design was a single randomized three-phases cross-over model. Study participants received, in random order, the following three study sessions: (i) a single oral dose of 2 mg/kg body weight DHA (Twisinin[™]: 50 or 100 mg per capsule, the T-2 Program, Thailand); (ii) a single oral dose of 4 mg/kg body weight DHA (Twisinin[™]: 50 or 100 mg per capsule; and (iii) a single oral dose of 4 mg/kg artesunate (AS: 50 mg per tablet; Guilin Pharmaceutical Works, Guangxi, China).

Compliance with all drug intake was under investigators' supervision. No food was allowed until 2 hours after drug intake. The washed-out period after each occasion was at least 2 days. Volunteers were hospitalized in the Bangkok Hospital for Tropical Diseases one day prior to, and on the day of pharmacokinetic study. No other concurrent drugs or alcohol were taken two weeks prior to, and during the study period.

Blood sample collection

Blood samples (5 ml each) were collected through an indwelling intravenous Teflon catheter, inserted into a forearm vein of the subject; the patency was maintained with sodium-heparinized saline. Samples for the assay of DHA, and/or AS were collected pre-dose, and at 15, 30, 45, 60, 90, and 120 minutes, and 3, 4, 6, and 8 hours after drug administration. Plasma samples were obtained through centrifugation within 10 minutes (1,500g, 15 minutes), and stored at -80°C until analysis.

Adverse reaction monitoring

The volunteers were physically examined and adverse reactions during the study were recorded with the date and time at which they appeared and disappeared. Adverse effects were assessed on the basis of non-suggestive questioning by the study investigators. These included gastrointestinal, central nervous, cardiovascular, and dermatological effects, as well as other changes possibly attributable to the study drugs. Routine blood investigations (hematology and biochemistry), and urinallysis were performed prior to and at the end of (2 days after last drug administration) the study.

Drug analysis

Concentrations of DHA and/or AS in the

576

Vol 35 No. 3 September 2004

plasma were determined by reductive mode highperformance liquid chromatography (HPLC-EC), according to the method of Na-Bangchang et al (1998b). The procedure involved the extraction of AS, DHA, and the internal standard - artemisinin (AN) with the mixture of dichloromethane and tert-methyl-butyl-ether (8:2, v/v). Chromatographic separation consisted of the mobile phase (acetonitrile: water containing 0.1 M acetic acid pH 4.8 = 45:55%) running through the column (Nova-Pak¹⁵ C₁₈, 3.9 mm i.d. x 150 cm, 5 mm particle size). The average recoveries of AS, DHA-(α-anomer) 2 and 4 mg, and AN at the concentration range of 10-800 ng/ml were 81.9, 88.2, 101.1 and 84.3 %, respectively. The coefficients of variation (precision and repeatability) were below 10% for all three compounds at concentrations of 800, 400, 200, 500, and below 20% at concentration of 10 ng/ml. The limits of quantification for both AS and α-DHA in spiked plasma samples were 5 and 3 ng/ml, respectively.

Pharmacokinetic analysis

Pharmacokinetic parameters of DHA following the administration of a single oral dose of DHA or AS were calculated by model-independent (oral DHA, DHA as an active plasma metabolite of AS) and model-dependent (oral DHA) methods from plasma concentration-time data (Gibaldi, 1991).

Model-independent method. The time at which maximum plasma concentration occurred (t_{max}), and the maximum concentration (C_{max}) were obtained directly from concentration-time data. The area under the curve from zero time to the last observed time (AUC_{0-t}) was calculated by the linear trapezoidal rule for ascending data points and by the log-linear trapezoidal rule for descending data points. The area under the curve extrapolated from the last data point to infinity (AUC_{1,2}) was estimated by dividing the estimated concentration at the last data point with the elimination rate constant (λ_i) . The total area under the curve (AUC_{0-x}) was calculated as $AUC_{0-t} + AUC_{t-x}$. The terminal elimination rate constant (λ_i) and half-life $(t_{1/2i})$ were estimated by log-linear regression of at least four last concentration-time data. The apparent total body clearance (CL/f) and apparent volume of distribution associated with terminal phase (V_z/f) were calculated as CL/f = dose/AUC and V_z/f = $(Cl/f)/\lambda_z$, respectively.

Model-dependent. To better characterize the absorption phase, a one-compartment open model with first order input and first-order elimination was fitted to the data by an iterative least squares curve fitting Program TopFit^M. The observed concentrations were weighted as the reciprocal of the analytical variance. The adequacy of the pharmacokinetic models chosen was based on statistical methods to assess the validity of the models for describing the experimental data, *ie F*-ratio test, Akaike's information, Schwartz and Imbimbo criteria.

Statistical analysis

Statistical analysis of the data was performed with SPSS for Windows (SPSS Software, Gorichem, The Netherlands). The distribution of data was assessed for normality using the Schapiro-Wilks test. Data were expressed as medians with 95% CIs values.

The pharmacokinetics of DHA in healthy Thai volunteers following the administration of 2, 4 mg/kg body weight DHA, or 4 mg/kg body weight AS were compared using Kruskal Wallis test and Wilcoxon signed ranks test for non-normally distributed data. Comparison of pharmacokinetic parameters between sex (male, female) in each drug regimen was performed by Mann-Whitney U-test. Categorical data (adverse reactions) were analyzed by calculating chi-square with Yate's correction or by Fisher's exact test. Significance level for all tests was set at α <0.05.

RESULTS

Tolerability

All volunteers were healthy, verified by laboratory results, physical examination, and vital sign monitoring. Table 1 presents demographic and baseline laboratory (hematology/ biochemistry) data of the volunteers. Significant laboratory changes in some hematological or biochemical tests were noted at the end of the study (2 days after drug administration). Parameters which decreased at the end of the study included hemoglobin, hematocrit, total protein, albumin,

Vol 35 No. 3 September 2004

-133 -

Table 1
Demographic and baseline laboratory data of 20 healthy Thai volunteers (10 males, 10 females); data are presented as median (95% CI) values.

	Male	Female
Age (y)	21 (20, 33)	23 (21, 35)
Body weight (kg)	53.7 (47.8, 59)	49.3 (46.7, 51.6)
Hematology		, = ,
Hemoglobin (mg/dl)	13.85 (11.8, 15.1)	12.7 (11.4, 13.8)
Hematocrit (%)	43 (36, 46)	39.5 (36, 42)
Red cells (x 10^{12} /I)	1.44 (4.57, 6.78)	4.67 (4.01, 6.41)
Platelets (x 10 ⁹ /l)	233 (203, 310)	309 (192, 328)
White cells $(x 10^9/l)$	7.7 (5.1, 9.8)	7.4 (4.5, 9.3)
PMN (%)	49 (37, 61)	49.5 (42, 62)
Lymphocyte (%)	36 (26, 55)	41 (27, 49)
Monocyte (%)	6 (0, 11)	6 (2, 7)
Eosinophil (%)	5 (2, 12)	3 (1, 13)
Biochemistry		- (-,,
Direct bilirubin (mg/dl)	0.15 (0.1, 0.6)	0.165 (0.006, 0.25
Total bilirubin (mg/dl)	0.685 (0.36, 2.4)	0.595 (0.32, 1.3)
Alkaline phosphatase (U/I)	64.5 (44, 112)	67.5 (44, 79)
SGOT (U/I)	22 (15, 50)	18 (16, 24)
SGPT (U/I)	20 (12, 98)	11 (7, 19)
Total protein (g/dl)	7.35 (6.3,7.9)	7.65 (7.2,8.2)
Albumin (g/dl)	4.75 (4.3, 4.9)	4.5 (4.2, 4.6)
Globulin (g/dl)	2.6 (2, 3.1)	3.0 (2.6, 3.4)
Creatinine (mg/dl)	0.9 (0.78, 1.2)	0.75 (0.65, 0.9)
BUN (mg/dl)	11.5 (8.3, 17.7)	9.95 (7, 13.8)
Glucose (mg/dl)	93 (80, 113)	86 (81, 115)
Sodium (mmol/l)	141.5 (139, 145)	142 (139, 144)
Potassium (mmol/l)	3.8 (3.6, 4.8)	4.15 (3.7, 4.6)
Chloride (mmol/l)	106 (104, 108)	106.5 (105, 108)
Bicarbonate (mmol/l)	24.5 (24, 26)	24.5 (24, 26)

globumin, while parameter which increased at the end of the study was platelet count. However, these values returned to normal within 2 weeks after the termination of the drugs. None of the volunteers complained of adverse reaction or drug-related effect during the study.

Pharmacokinetics

Median plots of plasma concentration-time profiles of DHA and/or AS following the administration of a single oral dose of 2 or 4 mg/kg body weight DHA, or 4 mg/kg body weight AS in 20 healthy Thai volunteers are shown in Figs 1a and 1b. Oral DHA was rapidly absorbed from gastrointestinal tract with marked inter-individual variation. In most cases, the drug was detectable

in plasma within 15 minutes of dosing; it disappeared thereafter from systemic circulation within 3-8 hours. Oral AS was rapidly biotransformed to DHA, which was detectable in plasma as early as 15 minutes of AS dosing. Considerable interindividual variation in plasma DHA concentrations following both oral formulations of DHA and AS was observed. Systemic exposure of AS itself was seen only during 15 minutes to 1 hour but with markedly low concentrations.

The pharmacokinetics of DHA (median and 95% CI) following a single oral dose administration of 2 or 4 mg/kg body weight DHA, or 4 mg/kg body weight AS in 20 healthy Thai volunteers, calculated based on model-independent and

578

Vol 35 No. 3 September 2004

Table 2
Pharmacokinetics of DHA (model-independent) following a single oral dose of 2 or 4 mg/kg body weight DHA (Twisinin™), or 4 mg/kg body weight AS (Guilin Pharmaceutical Works) in healthy Thai males (n=10) and females (n=10) data are presented as median (95% CI) values.

Pharmacokinetic Parameters	2 mg/kg DHA	4 mg/kg DHA	4 mg/kg AS
C _{max} (ng/ml) ^a	181 (120-306)	360 (181-658)	519 (236-284)
AUC _{0-x} (ng.h/ml) ^b	377 (199-1,128)	907 (324-2,289)	657 (362-2,079)
$t_{\text{max}}(h)^c$	1.5 (0.75-2.0)	1.5 (0.75-3.0)	0.7 (0.25-1.5)
$\lambda_{\perp}(/h)^d$	1.009 (0.532-1.375)	0.802 (0.668-1.284)	1.301 (0.678-2.832)
$t_{1/2z}(h)^e$	0.96 (0.70-1.81)	1.2 (0.75-1.44)	0.74 (0.34-1.42)
V,/f (l/kg)	7.7 (4.33-12.3)	6.6 (3.1-10.1)	-
CL/f (ml/min/kg)	90.5 (28.6-178.2)	72.2 (31.9-113.6)	<u>-</u>

 $[^]a$ Significant difference between 2 and 4 mg/kg body weight DHA with p = 0.0001 (95% CI = 151-246); and between 2 mg/kg body weight DHA and 4 mg/kg body weight AS with p = 0.006 (95% CI = 202-430); and between 4 mg/kg body weight DHA and AS with p = 0.02 (95% CI = 9-235).

Table 3
Pharmacokinetics of DHA (model-dependent)
following a single oral dose of 2 or 4 mg/kg
body weight DHA (Twisinin™) in healthy Thai
males (n=10) and females (n=10); data are
presented as median (95% CI) values.

Pharmacokinetic parameters	2 mg/kg DHA	4 mg/kg DHA
C _{max} (ng/ml)	144 (91-260)	283 (105-632)
AUC _{0-x} (ng.h/ml)	415 (211-1,280)	919 (408-2,480)
t _{max} (h)	1.45 (0.81-2.2)	1.46 (0.81-2.2)
$t_{lag}(h)$	0.25 (0.11-0.25)	0.24 (0.19-0.25)
k _a (/h)	0.83 (0.51-2.59)	0.83 (0.42-3.84)
$t_{1/2a}(h)$	0.83 (0.27-1.35)	0.84 (0.18-1.65)
k (/h)	0.82 (0.51-1.24)	0.81 (0.41-1.21)
t _{1/2} (h)	0.83 (0.2-1.35)	0.86 (0.39-10.1)
V /f (l/kg)	4.8 (2.5-10.6)	5.2 (2.2-7.6)
CL/f (ml/min/kg)	82.4 (25.3-171.9)	68.6 (24.5-103.6)

[&]quot;Significant difference between 2 and 4 mg/kg body weight DHA with p = 0.00001 (95% CI = 107 to 208). "Significant difference between 2 and 4 mg/kg body weight DHA with p = 0.00001 (95% CI = 411 to 749).

model-dependent methods, are summarized in Tables 2 and 3, respectively. The fitting of the concentration-time curves of DHA either when given as oral DHA to a one-compartment model with first-order input and output yielded satisfactory results in all volunteers. Pharmacokinetics of DHA calculated using both methods were generally in good agreement. No significant absorption lag-time was observed from the time of drug administration until it was first detectable in the plasma. Large inter-individual variation among the pharmacokinetic parameters was noted, particularly with $AUC_{0-\infty}$ and CL/f as reflected by the values of coefficients of variation for both parameters (40-45%).

No significant difference was found in any of DHA pharmacokinetic parameters between male and female volunteers following the administration of either dose of DHA (2 or 4 mg/kg body weight), or as a single oral dose of 4 mg/kg body weight AS.

Model-independent analysis. Marked differ-

^hSignificant difference between 2 and 4 mg/kg body weight DHA with p = 0.00001 (95% CI = 425-689); and between 2 mg/kg body weight DHA and 4 mg/kg body weight AS with p = 0.0005 (95% CI = 98-420); and between 4 mg/kg body weight DHA and AS with p = 0.02 (95% CI = -481to -48).

Significant difference between 2 mg/kg body weight DHA and 4 mg/kg body weight AS with p = 0.0002 (95% CI = -1 to -0.5); and between 4 mg/kg body weight DHA and AS with p = 0.00005 (95% CI = -14 to -0.5).

No statistical test was performed.

 $^{^{\}circ}$ Significant difference between 2 mg/kg body weight DHA and 4 mg/kg body weight AS with p = 0.0097 (95% CI = -0.044 to -0.0009); and between 4 mg/kg body weight DHA and AS with p = 0.0005 (95% CI = -0.56 to -0.21).

ences in the pharmacokinetic parameters of DHA were observed following the oral dose regimens of DHA and AS. Oral DHA at the dose level of 2 mg/kg body weight resulted in a significantly lower C_{max} and AUC_{0-∞} of DHA compared with 4 mg/kg body weight dose of DHA or AS. With respect to DHA, C_{max} increased proportionally with the dose with a median ratio of 2.3. C_{max} of DHA following the same dose of AS (4 mg/kg body weight) was significantly higher than that following DHA, but greater AUC_{0-∞} was achieved following DHA. In addition, t_{max} of DHA following AS was found to be significantly shorter than that following DHA at either dose level.

Model-dependent analysis. Pharmacokinetics of DHA following the two dose levels of DHA (2 and 4 mg/kg body weight) were generally comparable and consistent with the values calculated using model-independent method. Only two significant differences in dose-dependent pharmacokinetic parameters were noted; C_{mux} and $AUC_{0-\infty}$ following the higher dose level were approximately double that seen in the model-independent analysis.

DISCUSSION

The pharmacokinetics of AS and DHA have been addressed in a few studies, with varying routes of administration, ethnicity of the subjects and disease states (Yang et al, 1985; Zhao et al, 1988; Na-Bangchang et al, 1997; 1998a; 1999; Batty et al, 1998a,b; Hung et al, 1999; Binh et al, 2001; Ilett et al, 2002). The concentration-time profiles of DHA following the administration of the oral doses of both DHA and AS observed in the present study were generally in accord with those previously reported. No marked sex diffrences in DHA pharmacokinetics was observed following either oral DHA or AS, which supports a previous report in healthy Vietnamese volunteers (Hung et al, 1999). The current formulation of oral DHA (Twisinin[™]) was rapidly absorbed from the gastrointestinal tract; C_{max} was attained at approximately 1-2 hours of dosing. The pharmacokinetic profile was generally well described by a one-compartment open model with first- order input and output, characterising the

rapid absorption, distribution and elimination phase. Elimination half-life was estimated to be in the range of 0.8-1.5 hours. Little is known about the ultimate phase of dihydroartemisinin in human body. The in vitro studies using rat isolated perfused liver (IPRL) and microsomes have identified glucuronide conjugate as a sole and principal metablite of DHA (Maggs et al, 1997). The extent of the hepatic extraction of oral DHA is unknown. Oral AS (Guilin Pharmaceutical Works, China) was almost immediately biotransformed to the active metabolite, DHA. Systemic exposure to AS itself was very low (C_{max} of less than 200 ng/ml in most cases) and was observed only during a short period, the first hour, after drug intake. In contrast, its plasma metabolite, DHA, attained a relatively high C_{max} within 0.25-1.5 hours of AS dosing. Distribution/elimination of this metabolite was also rapid. The apparent elimination half-life was estimated to be in the range of 0.4-1.4 hours.

The pharmacokinetics of DHA following a single oral dose of 2 or 4 mg/kg body weight DHA were generally similar. This was indicated by the comparable values of dose-independent pharmacokinetic parameters. Linearity of DHA kinetics was seen at these two dose levels, which was ascribed by the proportional increase in AUC, with the dose (mean $AUC_{0-\infty}$ ratio of 2.4). It appears that the bioavailability of the current formulation of oral DHA (Twisinin™) is markedly low (approximately 50%) when compared with the formulation produced by Guilin Pharmaceticals, China (Cotexin[™]: tablet) or Arenco nv. Belgium (Dihydroartemisinin™: capsule) (Na-Bangchang et al, 1997; Hung et al, 1999). In a previous study in healthy Thai volunteers following 300 mg of Dihydroartemisinin™ (Arenco-nv, Belgium), median (range) AUC $_{0-\infty}$ and C $_{max}$ of 2,010 (636-4,079) ng.h/ml and 679 (307-1,000) ng/ml were achieved, respectively (Na-Bangchang et al, 1997). Furthermore, in a study in healthy Vietnamese volunteers following 240 mg of Cotexin™, median (range) $AUC_{0\text{-}\infty}$ and C_{max} of 1,867 (420-3,535) ng.h/ml and 466 (128-787) ng/ml were attained, respectively (Hung et al, 1999).

It was noted that the pharmacokinetics of DHA following oral DHA and AS doses showed noticeable differences in pharmacokinetic. The

580

Vol 35 No. 3 September 2004

(b)

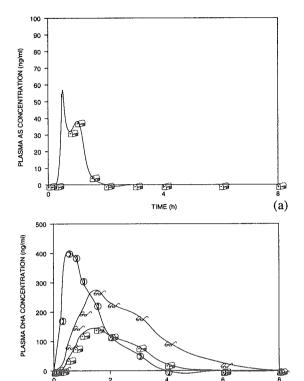


Fig 1-Median plasma concentration-time profiles of (a) artesunate (AS) following the dose of oral 4 mg/kg body weight oral AS, and (b) dihydroartemisin (DHA) following the doses of oral 2 and 4 mg/kg body weight oral DHA.

TIME (h)

Disposition of DHA, when the drug was given as oral AS, was greatly influenced by the kinetics of the parent compound itself, ie, formation of DHA was rate-limited by kinetics (absorption, distribution, and metabolism) of AS. Higher C_{max} of DHA was attained at faster time following the oral AS, but total systemic exposure was higher following oral DHA given at the same dose level (4 mg/kg body weight). This may suggest that absorption of DHA from oral formulation may be more erratic but relatively complete compared with oral AS. DHA is poor water solubility, which means that it can only be administered orally or rectally. Previous data, however, showed that the bioavailability of orally administered DHA was only 45% relative to the DHA from intravenous AS (Binh et al, 2001).

Vol 35 No. 3 September 2004

In conclusion, the oral formulation of both AS and DHA were well tolerated. No clinically adverse reaction or drug-related effect was observed during the study. Nevertheless, adequate therapeutic plasma concentrations following the administration of the current formulation of oral DHA (Twisinin™) may not be guaranteed. This is of concern, especially in patients with malaria, whose absorption of the drug by the oral route may be erratic and incomplete.

ACKNOWLEDGEMENTS

The study was supported by the Thailand Tropical Diseases (T-2 Program) and partly by a Mahidol University Grant. We thank nursing staff of the Hospital for Tropical Diseases for their assistance during the clinical phase of the study.

REFERENCES

Barradell LB, Fitton A. Artesunate. A review of its pharmacology and therapeutic efficacy in the treatment of malaria. *Drugs* 1995; 50: 714-41.

Basco L, Le bras J. In vitro activity of artemisinin derivatives against African siolates and clones of Plasmodium falciparum. Am J Trop Med Hyg 1993; 49: 301-7.

Batty KL, Le AT, Ilett KF, et al. A pharmacokinetic and pharmacodynamic study of artesunate for vivax malaria. Am J Trop Med Hyg 1998a; 59: 823-7.

Batty KT, Thu LT, Davis TME, et al. A pharmacokinetic and pharmacodynamic study of intravenous vs oral artesunate in uncomplicated falciparum malaria. Br J Clin Pharmacol 1998b; 45: 123-29.

Berman JG, Egan A, Keusch GT. The intolerable burden of malaria: a new look at the numbers. *Am J Trop Med Hyg* 2001; 64 (suppl): 4-7i.

Binh TQ, Ilett KF, Batty KT, et al. Oral bioavailability of dihydroartemisinin in Vietnamese volunteers and in patients with falciparum malaria. Br J Clin Pharmacol 2001; 51: 541-6.

de Vries PJ, Dien TK. Clinical pharmacology and therapeutic potential of artemisinin and its derivatives in the treatment of malaria. *Drugs* 1996; 52: 818-6.

Gibaldi M. Biopharmaceutics and clinical pharmacokinetics. 4th ed. Philadelphia: Lea and Febriger, 1991: 14-23.

Harinasuta T, Karbwang J. Qinghaosu: a promising

- antimalarial. JAMA 1994; 34: 7.
- Hein TT, White NJ. Qinghaosu. Lancet 1993; 341: 603-8.
- Hung LN, Na-Bangchang K, Thuy LTD, Anh TK, Karbwang J. Pharmacokinetics of a single oral dose of dihydroartemisinin in Vietnamese healthy volunetters. Southeast Asian J Trop Med Public Health 1999, 30: 11-6.
- Ilett KF, Batty KT, Powell SM, et al. The pharmacokinetic properties of intramuscular artesunate and rectal dihydroartemisinin in uncomplicated falciparum malaria. Br J Clin Pharmacol 2002; 53: 23-30.
- Lee IS, Hufford CD. Metabolism of antimalarial sesquiterpene lactones. *Pharmacol Ther* 1990; 48: 345-5
- Lin AJ, Klayman DL, Milhous WK. Antimalarial activity of new water-soluble dihydroartemisinin derivatives. J Med Chem 1987; 30: 2147-50.
- Looareesuwan S, Wilairatana P, Andrial M. Artesunate suppository for treatment of severe falciparum malaria in Thailand. *Jpn J Trop Med Hyg* 1996; 24 (suppl 1): 13-5.
- McIntosh HM, Olliaro P. Treatment of severe malaria with artemisinin derivatives. A systematic review of randomised controlled trials. *Med Trop* 1998; 58 (suppl): 61-2.
- Maggs JL, Madden S, Bishop LP, O'Neil PM, Park BK. The rat biliary metabolites of dihydroartemisinin, an antimalarial endoperoxide. *Drug Metab Dispos* 1997; 25: 1200-04.
- Na-Bangchang K, Congpuong K, Ubalee R, Thanavibul A, Tan-ariya P, Karbwang J. Pharmacokinetics and *ex vivo* antimalarial activity of sera following a single oral dose of dihydroartemisinin in healthy Thai males. *Southeast Asian J Trop Med Public Health* 1997; 28: 731-5.
- Na-Bangchang K, Karbwang J, Congpoung K, Thanavibul A, Ubalee R. Pharmacokinetic and

- bioequivalence evaluation of two generic formulations of oral artesunate. *Eur J Clin Pharmacol* 1998a; 53: 375-6.
- Na-Bangchang K, Congpoung K, Hung LN, Molunto P, Karbwang J. Simple high performance liquid chromatographic method with electrochemical detection for the simultaneous determination of artesunate and dihydroartemisinin in biological fluids. *J Chromatogr B* 1998b; 708: 201-7.
- Na-Bangchang K, Tippawangkosol P, Thanavibul A, Ubalee A, Karbwang J. Pharmacokinetic and pharmacodynamic interactions of mefloquine and dihydroartmisinin. *Int J Clin Pharm Res* 1999; XIX: 9-17.
- Navaratnam V, Mansor SM, Sit N, Grace JM, Li Q, Olliaro P. Pharmacokinetics of artemisinin-type of compounds. *Clin Pharmacokinet* 2000; 39: 255-70.
- Newton PN, Angus BJ, Chierakul W, et al. Randomized comparison of artesunate and quinine in the treatment of severe falciparum malaria. Clin Infect Dis 2003; 37: 7-16.
- van Agtmael MA, Eggelte TA, van Boxtel CJ. Artemisinin drugs in the treatment of malaria: from medicinal herbs to registered medication. Trends Pharmacol Sci 1999; 20: 199-205.
- Wernsdorfer WH. Epidemiology of drug resistance in malaria. *Acta Trop* 1994; 56: 143-56.
- White NJ. Clinical pharmacokinetics and pharmacodynamics of artemisinin and derivatives. *Trans R Soc Trop Med Hyg* 1994; 88 (suppl 1): S41-S43.
- Yang SD, Ma JM, Sun JH, Chen DX, Song ZY. Clinical pharmacokinetics of a new effective antimalarial artesunate, a qinghaosu derivative. *Chin J Clin Pharmacol* 1985; 1: 106-9.
- Zhao KC, Chen ZX, Lin BL, Guo XB, Li GQ, Song ZY. Studies on the phase I clinical pharmacokinetics of artesunate and artemether. *Chin J Clin Pharmacol* 1988; 4: 76-81.

APPLICATION OF REAL-TIME POLYMERASE CHAIN REACTION (PCR) ANALYSIS FOR DETECTION AND DISCRIMINATION OF MALARIA PARASITE SPECIES IN THAI PATIENTS

Yuko Katakai¹, Rachatawan Chiabchalard², Kanako Komaki-Yasuda^{1,3}, Shin-ichiro Kawazu¹, Pratap Singhasiyanon², Srivicha Krudsood², Sornchai Looareesuwan² and Shigeyuki Kano¹

¹Department of Appropriate Technology Development and Transfer, Research Institute, International Medical Center of Japan, Tokyo, Japan; ²Faculty of Tropical Medicine, Mahidol University, Bangkok, Thailand; ³Domestic research fellow, Japan Society for the Promotion of Science, Tokyo, Japan

Abstract. A TaqMan real-time PCR system was used to detect and discriminate the 4 species of human malaria parasites in clinical blood samples. A 150-base pair (bp) region of the small subunit ribosomal RNA (SSU rRNA) gene of each malaria parasite, including species-specific sequences to be detected by TaqMan probe, was used as a target for PCR analysis. The PCR method used universal primers and species-specific TaqMan probes for *Plasmodium falciparum*, *P. vivax*, *P. ovale*, and *P. malariae*. The detection threshold for the method, as determined with serial dilution of cultured *P. falciparum*-infected erythrocytes, was 5 parasite-infected erythrocytes per reaction. Fifty blood samples of falciparum malaria and a second set of 50 samples of vivax malaria, diagnosed by microscopic examination at the Hospital for Tropical Diseases, Mahidol University, Thailand, were analyzed by real-time PCR. In the 50 samples of microscopically-diagnosed falciparum malaria, 40 were regarded as *P. falciparum* single infection, 7 were *P. falciparum* and *P. vivax* mixed infections, and 3 were *P. vivax* single infection by real-time PCR. In the second set of 50 samples of microscopically diagnosed vivax malaria, all were considered *P. vivax* single infection by PCR. Neither *P. ovale* nor *P. malariae* infection was identified in the 100 blood samples. Real-time PCR analysis was shown to be more sensitive and accurate than routine diagnostic methods. Application and extension of the PCR method reported here will provide a powerful tool for further studies of malaria.

INTRODUCTION

Accurate diagnosis of malaria and identification of the *Plasmodium* species responsible are essential for optimal patient management and for understanding the epidemiology of malaria. Microscopic examination of blood smears is the standard method for diagnosis of malaria. Although this method is sensitive and specific, it is subjective and time-consuming, particularly for detecting a small number of parasites. In addition, it is often very difficult to identify mixed infections (Snounou *et al.*, 1993a; Rubio *et al.*, 2002).

Various alternative diagnostic methods have been developed. These include fluorescence microscopy (Kawamoto and Billingsley, 1992), concentration techniques, such as the quantitative buffy coat method (Petersen and Marbiah, 1994), and immunological antigen capture assays such as malaria rapid diagnostic tests (Tham et al, 1999; Wongsrichanalai et al, 2003). However, persistence of the antigens in the blood-

Correspondence: Shigeyuki Kano, Department of Appropriate Technology Development and Transfer, Research Institute, International Medical Center of Japan, 1-21-1, Toyama, Shinjuku, Tokyo 162-8655, Japan. E-mail: kano@ri.imcj.go.jp

streams of patients might result in false positive results in an antigen capture assay. Thus, use of more than one test is recommended to confirm diagnosis.

In this study, we applied real-time PCR with TaqMan technology (Bell and Ranford-Cartwright, 2002) to analyze malaria parasite infections in clinical blood samples.

MATERIALS AND METHODS

Parasite culture

The FCR-3 strain of *P. falciparum* was cultured by the method of Trager and Jensen (1976) followed by synchronization with sorbitol treatment (Lambros and Vanderberg, 1979). When the parasites reached the ring stage, the culture was diluted serially, and blood samples containing 5×10^5 to 5×10^1 parasite-infected erythrocytes were prepared. Genomic DNA was extracted from the samples, and of the amount, 1/10 was used as a template for PCR. The minimum number of parasite-infected erythrocytes per reaction was 5.

Preparation of plasmid DNA

Approximately 150-bp of the small subunit ribosomal RNA (SSU rRNA) gene sequence was amplified from the parasite DNA with the universal

Vol 35 (Suppl 2) 2004

primers shown in Table 1. Genomic DNA served as the PCR template and was isolated from the clinical blood samples that contained *P. vivax, R. ovale*, or *P. malariae*, or from cultured blood for *P. falciparum*. The DNA fragment was cloned into the plasmid vector pCR[®] 2.1-TOPO[®] (Invitrogen Corp, Carlsbad, CA, USA), and the sequence was confirmed by cycle sequencing (Applied Biosystems, Foster City, CA, USA).

TaqMan PCR

The universal primers and TaqMan probes used are shown in Table 1. The TaqMan probes were labeled with a reporter dye, 5-carboxyfluorescein (FAM), and conjugated with minor groove binder (MGB) for increased sensitivity and decreased background fluorescence (Kutyavin et al, 2000). The probes were designed with Primer Express software (Applied Biosystems) based on the SSU rRNA gene sequence (Genbank accession numbers of the 4 parasite species are shown in Table 1). The primers and probes were synthesized and HPLC purified by Applied Biosystems Japan (Tokyo, Japan).

Real-time PCR was performed according to the manufacturer's instructions (Applied Biosystems). Briefly, 5 µl template DNA, 300 nM forward primer, 300 nM reverse primer, 100 nM TaqMan MGB probe and 1x Universal Master Mix in a total reaction volume of 25 µl were amplified on ABI PRISM 7700 or 7900 Sequence Detection Systems (SDS) (Applied Biosystems). The following PCR conditions were used: optimization of AmpErase uracil-N-glycosylase (Applied Biosystems) activity at 50°C for 2 minutes,

initial hot start at 95°C for 10 minutes and 50 cycles of 95°C for 15 seconds and 60°C for 1 minute. The fluorescence signal was detected and analyzed with ABI PRISM SDS software (Applied Biosystems). Plasmid DNA in the range of 0.001fg -10pg was used as a quantification standard for the SDS calibration curve.

Clinical blood samples

One hundred blood samples were obtained from patients at the Hospital for Tropical Diseases, Mahidol University, Thailand, in 1997. The patients provided written consent, and this study was approved by the Ethics Committee of Mahidol University. The blood was collected with EDTA, and thin blood smears were prepared. The blood smears were examined microscopically by the laboratory staff of the hospital. *P. falciparum* was confirmed in 50 samples, and *P. vivax* was confirmed in a second set of 50 samples. The blood samples were stored at -20°C until DNA extraction.

DNA extraction from blood samples

The frozen blood samples were thawed on ice, and 250 μ l were taken for DNA extraction. Five hundred μ l DNAzol® BD reagent (Invitrogen) were mixed in, 200 μ l isopropanol were added, and the reaction was incubated for 5 minutes at room temperature. The samples were centrifuged at 6,000g for 6 minutes to sediment the precipitated DNA. The DNA pellets were washed with DNAzol® BD reagent and then washed with 75% ethanol. After removing the ethanol, the DNA pellets were dissolved in 50 μ l 8 mM NaOH and frozen at -20°C until use.

Table 1
Sequence of primers and oligonucleotide probes used for the detection of SSU rRNA genes of the malaria parasites.

Primers/probe	es Sequence $(5' \rightarrow 3')$	Position ^a		Origin
Primer				
Forward	ACGATCAGATACCGTCGTAATCTT	1062-1085	M19172.	Kimura et al, 1997
Reverse	GAACCCAAAGACTTTGATTTCTCAT	1180-1204	M19172,	Kimura et al, 1997
Probe ^b				
Pf-probe	CATCTTTCGAGGTGACTT	1138-1155	M19172	
Pv-probe	TCTCTTCGGAGTTTAT	1471-1486	X13926	
Po-probe	TTTCCCCGAAAGGA	1152-1165	L48987	
Pm-probe	AGAGACATTCTTATATATGAGTG	1173-1195	M54897	

^aPositions correspond to the 18S rRNA sequence.

Vol 35 (Suppl 2) 2004

^bPf = P. falciparum; Pv = P. vivax; Po = P. ovale; Pm = P. malariae